



新理事長に就任の一宮吾郎氏(右)と花束を贈呈された菅本博・前理事長(名誉顧問・理事)(左)



第23回通常総会会場

▽理事長 一宮 吾郎	▽副理事長 花松 操	▽専務理事 土井池 悅治	▽顧問・理事 (花松設備工業株)
▽理事 (関西設備工業株) 菅本 博	▽副理事長 (ヤブサダイナミックス) 花松 操	▽専務理事 (土井池設備工業株) 土井池 悅治	▽顧問・理事 (エアシステム株) 土井池 悅治
▽同 (新任) (同) 増田 小太郎	▽同 (同) (同) 増田 小太郎	▽同 (同) (同) 川元 正行	▽同 (同) (同) 增田 小太郎
▽監事 (大島工業㈱) 大島 德央	▽同 (同) (同) 増田 小太郎	▽同 (同) (同) 增田 小太郎	▽同 (同) (同) 増田 小太郎
▽同 (同) (同) 増田 小太郎	▽同 (同) (同) 增田 小太郎	▽同 (同) (同) 增田 小太郎	▽同 (同) (同) 増田 小太郎

新理事長に就任の一宮吾郎氏(右)と花束を贈呈された菅本博・前理事長(名誉顧問・理事)(左)



理事長就任に当たり

組合員のなお一層の結集を

一宮 吾郎

日本鋼管ダクト用亜鉛鉄板
亜鉛鉄板平板・表面処理鋼板
カラーコイル
トーアのアングル

NKK(日本鋼管)
グループ

NKKグループ
エヌトレ薄板建材

エヌトレ西部薄板建材
〒550-0012 大阪市西区立売堀4-5-27
シティビル阿波座
TEL 06-532-1107
FAX 06-533-9857

新日鉄亜鉛鉄板、月星印亜鉛鉄板
日板ファブリダクト、日板フランジその他
=日本鐵板指定問屋=

株式会社
大塩

本社 〒581 八尾市西弓削1丁目52番地
滋賀支店 〒520-30 滋賀県栗東市栗東町出庭689-1
尼崎営業所 〒661 尼崎市武庫の里2丁目19番1号
☎八尾0729(49)7181代表
☎栗東0775(53)4481代表
☎福井06(431)1192
☎福井06(433)3604

「第二十三回通常総会」は、五月二十六日(火)午後三時三十分から大阪市北区の東急ホテルにおいて開催。理事会上程の全議案を審議・可決、滞りなく終了致しました。

第一回の総会は、理事長挨拶のあと、議長の竹中慶徳氏(㈱三和製作所社長)によって進められました。

今年度の議案八件は別掲をご参照下さい。事業報告では、景気低迷の厳しい環境により前年度

は、購買事業二・五千万円、教育情報事業、福利厚生事業は、ほぼ前年に準じ

本年度の事業計画としては、下回る結果となり、年度末における流動資産約二千万円、固定資産一・一千三百九百万円となりました。

本年度の事業計画としては、下回る結果となり、年度末における流動資産約二千万円、固定資産一・一千三百九百万円となりました。

組合員、協力会員、登録業者の皆様には、ますます御清祥のことと拝察申し上げます。

さて、このたび定時総会の決議により理事長を仰せつかりましたが、この重職は関連する皆様の御理解と御協力なくして

果たせるはずがないと思つております。改めて皆様に御指導と御鞭撻を伏

まし上げます。

さて、このたび定時総会の決議により理事長を

仰せつかりましたが、この重職は関連する皆様の御理解と御協力なくして

果たせるはずがないと思つております。改めて皆

様に御指導と御鞭撻を伏

まし上げます。

随想

健 康

私は5年前に社内で開発された、現在全国的に販売されている「エンドウ豆の皮むき機」を手掛けている。簡単に言うと、エンドウ豆の皮(莢)と実を自動的に分別する機械である。

エンドウ豆は、一般に豆ごはん、卵とじ、かき揚げなどの料理で食されるが必ずむき実にしないと食べれない。私も幼少の頃、ざる盛りしたエンドウ豆を手

でむいて豆ごはんにして食した記憶があるが、現在では既にむき実にされた豆がスーパーの陳列に並んでいる。

当時は「たかがエンドウ豆の皮(莢)と実を分別する機械だ」とくらいの気持ちでしかなかった私だが、年々販売先が拡がるにつれ

立ちはだかっているのだ。

いろいろな場面に導き、私も欠けていた点に気付かしてく

る。この機械は、産地農家や

である。「チリン、チリ

音が鳴り響き、雑然として

立ちはだかっているのだ。

中央市場の午前五時半。

薄明るくなりかけてきた時

をむくのに二十分である。

スーパーに納入する加工業

者で多く使われているが、

音が鳴り響き、雑然として

立ちはだかっているのだ。

随想

先日、突然、編集長から「何か書いて下さい」と言われ、時丁度この不況の中の唯一珍しく忙しい、連休工事の直前で、何を書いたものやら、どうやつたらちよつとも儲けを出せるのやら、頭の中が全くまとらないまま五月に入ってしまった。

締め切り間近となつてはと目を閉じていると、浮かんできたのは、やはり今年一月末に亡くなった母の顔でした。

昭和四十九年の日本熟学倒産に引っ掛かって以来、多額の借金という荷物を背負うことになった私の父。

そして、その時から十六年後に、ほぼ借金完済という矢先に、六十五歳の誕生日から五日目の日に逝つてしまつたその人の傍らで、いつも励まし元気づけていた母でした。

私がまだ学生であったあの時からの、両親の家庭内の会話、やりとりを思い出すにつけ、中小企業の経営者とその妻というものの

「亡父母追憶」

2代目借金人生を邁進中

三輝工業(株) 濱田 誠剛

立場の大変さ、苦労の大きさに、いつも溜息をついてしまいます。これは何も、我々空調工事業組合の各社だけのこと津々浦々の会社の経営者と、いう人たちの九五%は中小

企業員だけが行つた時の何割高になつてたりして。されども、ほとんどの中小企業経営者にとって今、本当に苦しい時だと思います。従業員を削減したり、

給与を下げたり、厳しい価格と少ない受注の中での資本繰りに苦しんだりといふことも起つて来るかも知れません。「社長」という肩書きの辛さが身に滲みます。正念場を迎えるのかも知れません。

ここまで書いて、再び母の言葉を思い出しました。「お父さんは、借金を沢山していくも、「金は天下の回りもんや」と言って、結構使つてはったよ」と言う言葉です。

だいたい日本人は、景気の良い時でも、貯金に精を出すのですから、近頃の

おさらその傾向は強くなるのも当然かも知れません。それでも、少々の減税分くらいなど、超低利息の銀行に入らなければ、タنسの中に入ってしまうのでしょうか。しかし、これが結局、我々自身の仕事を減らして行くのですね。「お金持ち」と呼

べば、息子がまた、二代目借

金人生を邁進して行くこと

を笑いながら…。

何やら、書いているうちに、父と母に話しているよ

うな文章になつてしまいま

した。

父がこれを読み、たぶん、「だいたい当たつたる

分かつてないなあ。もっと

かなかつたり、失敗したり

かなかつたり、失敗したり